

神楽 中川戸神楽団 上演会

中川戸神楽団は、中国山地の山懐、山県郡北広島町（旧千代田町）に位置し、明治八年頃、吉藤（よしとう）八幡神社の氏子たちによって結成され、戦後になり当時高田舞といわれる新舞を導入し、神楽の保存伝承に努めてまいりました。

その後、様々なオリジナル神楽を発表し、近年は古くよりある演目に独自の演出を加え「保存的伝承から創造的伝承に」を合言葉に、「感動ある神楽」を目指し、日々精進しております。神楽団の活動の中心を地元吉藤八幡神社での秋祭り奉納神楽とし、一年を通じて他地域での奉納神楽・競演大会・各種イベント等に出演させていただいており、若い団員を中心にさらに活動を活発にしております。今後も地域の大切な伝統芸能である「神楽」を次世代に継承していくことができるよう、努力してまいります。ご声援よろしくお願いたします。

演目紹介

瀧夜叉姫（たきやしゅひめ）

平安中期、天慶の乱（940年）によって父である平将門を討たれた五月姫は、その仇を討つため都に出ますが、なかなかその思いを果たせずにいました。

五月姫は鞍馬の貴船神社に願を掛け、満願の夜、ついに妖術を授かった後、名を滝夜叉姫と改めて下総の国猿島の地へこもり、多くの手下を従えて朝命に背いたのでした。

滝夜叉姫征伐の勅命を受けた平貞盛と藤原秀郷は下総の地へ向かいますが、途中で出会った滝夜叉の腹心、兄ざし・弟ざしらにだまされて、滝夜叉姫の術中に落ちてしまいます。

八幡の神からの託宣により、貞盛・秀郷の危機を知り駆けつけた大宅中将光圀によりようやく危機を逃れ、激しい戦いとなりますが、やがて陰陽の術によってその邪心を祓い清められた滝夜叉姫は、将門の御霊を弔い、代の平穏を祈るために尼道に帰依するという物語です。

土蜘蛛（つちぐも）

大和の国の葛城山に古くより住む胡蝶の精魂が、胡蝶という侍女に化して、典薬の守りよりの使いと言って、頼光に毒を飲ませ殺そうとしました。

胡蝶の精魂は、頼光に正体を見破られ、宝刀膝切丸で一太刀あびせられ葛城山にとび去っていきました。頼光はこの宝刀を胡蝶切丸と改め四天王に授け、胡蝶を退治する様に命じます。

葛城山に向かった四天王は、妖術になやませられながらも、激闘のすえ胡蝶を退治したという物語です。

日時 **2018年12月1日** 土
開演 19:00（開場 18:00）

会場 **三原市くい文化センター 高原ホール**
広島県三原市久井町和草 1883-6

お問い合わせ先 **TEL 0847-32-7491**

